

新年のごあいさつ



酒田市長
本間正巳

新年、明けましておめでとうございます。
市民の皆さまには、つつがなく新春をお迎えのこととお喜び申し上げます。

昨年は、東京オリンピックの開催決定に日本中が、東北楽天ゴールデンイーグルスの日本一に東北全体が歓喜しました。
本市でも、念願の日本海沿岸東北自動車道の秋田・新潟両県境部分の事業化が決定し、日本海側が一本の太い線で結ばれる展望が開け、大きな喜びに沸いたところです。産業経済面では、株式会社プレステージ・インターナショナルが京田西工業団地の新社屋で業務を開始し、花王株式会社酒田工場では新工場が今春稼働に向け工事を開始、東北エプソン株式会社でも大規模設備投資が行われるなど、産業・雇用基盤が大きく強化されました。本市が大きく飛躍する好機を迎えたものと実感しております。また韓国釜山を介し全世界と結ばれている酒田港は、2基目のコンテナクレーンが完成しました。酒田港が、日本海の玄関口としての機能を果たすことで、東北全体の発展につなげていかなければなりません。

福祉・医療の分野においても、日本海総合病院酒田医療センターが完成し、日本海総合病院を核とした総合的な医療体制

午

2014 謹賀新年

が構築され全国的にも誇れる充実した医療体制となりました。防災面でも、義務教育施設の耐震化が進み、次代を担う子どもたちの安全安心の教育環境が整いつつあります。さらに、新たな防災拠点となる新庁舎の工事もスタートしたところです。

さて本市における最大の課題は、人口減少への対応です。今後引き続き総合的な施策を展開することにより、人口減少を抑制し、市の発展そして飛躍へとつなげていかなければなりません。

本市の基幹産業である農業に関しては、国において農業政策の大きな転換が予定されています。本市農産物の高い品質とブランド力により競争力の高い農業を実現するとともに、6次産業化により高い収益性を確立することで産業としての基盤強化を図っていきます。

また本年は、大型観光事業であるグアステイネーションキャンペーンが山形県で開催されます。多くの皆さまに訪れていただき、古くから港町として培われ、洗練されたおもてなしで酒田の魅力を堪能してもらいたいと思います。

酒田は、人・ものの交流を通して発展を遂げてきました。今再び交流都市としてのにぎわいを取り戻すためにも、内陸地域との直結は不可欠であり、とりわけ山形新幹線の庄内延伸を進めることが最も重要なことと考え、その促進に最大限の力を注いでいきます。

かつて空前の繁栄を極めた酒田湊みなと。その力は、私たちの遺伝子にしっかりと刻まれています。市民の英知を結集し、東北全体の発展へとつなげる「港都復活」の物語をしっかりと作り上げていきたいと考えています。

結びに、新たな年が全ての市民の皆さまにとって、夢と希望を帯び、酒田が実感できる良い一年でありますようにご祈念申し上げます。新年のごあいさついたします。